教育行政施策概要

人を育み文化を創造する学びのまちづくり

北村健郎教育委員長が2月20日、第10回市議会定例会で述べた教育行政施策の概要をお知らせします。

第10回市議会定例会の開会に当たり、平成19年度の教育行政施策について申し上げます。

今日の教育を取り巻く状況を見ますと、いじめや不登校、学力水準の低下などさまざまな課題が深刻化してきているとともに、国においては教育制度のあり方も議論されるなど、地方教育行政は大きな曲がり角に来ており、市町村教育委員会としても、新しい考え方が求められているととらえているものであります。

このような中で、市教育委員会といたしましては、ただ今申しました諸課題の解決に向けてなお一層努力をしてまいるとともに、市民一人一人が夢と希望を持って新しい時代を自ら切り開き、心のゆとりや豊かさが感じられるよう、人をはぐくみ文化を創造する学びのまちづくりを進めるため、学校教育と生涯学習の充実、また、スポーツの振興など、各種行政施策を進めてまいります。

以下、具体について申し上げます。

現在整備中の芦東山記念館（大東地域）

学びの場の環境を整備

まず教育環境の整備でありますが、今年18年度から、多様な学習に対応できる施設づくり、地域特性を生かした施設づくり、自然環境の有効活用を図った施設づくりなどに配慮して、弥栄・真滝統合中学校の建設に着手しておりますが、20年度の開校に向け、引き続き工事を進めるほか、内野小学校と大原小学校の統合整備に着手してまいります。

また、子どもたちへのより良い学習環境の提供を主眼として、一関市立学校通学区域調整審議会を開催し、通学区域の見直しを行ってまいります。

次世代を担う子どもたちが安心して学べる環境を整えるため、耐震診断の調査結果に基づき、一関小学校の校舎耐震補強工事をはじめ、他の学校にありましても、危険度を勘案し計画的な耐震補強工事に向けての実施設計を実施するなど、子どもの学びの場の安全確保に努めてまいります。

学校給食施設につきましては、安全な給食の供給、食育の充実を図るため、大東地域と東山地域の小中学校に給食を供給する学校給食センターの建設工事を進めてまいります。

安全でおいしい給食を提供します
（写真は花泉地域の油島小学校）

学校教育につきましては、「確かな学力」と「豊かな心」を育てる教育を基本目標とし、学習指導専門員による学力向上指導・支援の充実と「わかる授業」づくりを推進するほか、市内全中学校の2年生を対象に、長期社会体験学習の実施、さらには、学校不適応や障害のある児童生徒に適切な助言指導を行うため、教育相談員、特別支援コーディネーター、学校サポーターによる教育相談、特別支援教育の充実に努めてまいります。

生涯学習につきましては、家庭教育に対する支援や地域特性を生かした地域づくりの支援などに努め、誰もが生涯を通じて主体的に学習できるよう普及奨励を図るとともに、平成19年度には芦東山記念館の開館や文化創造施設の建設着手など、生涯学習の推進に努めてまいります。

図書館につきましては、図書館運営の一体化を図るべく、新たな図書館管理運営システムを構築し、なお一層、市民の求める情報の提供と読書活動の普及に努め、また、文化創造施設には、東山地域の図書館の配置を計画するなど、地域の特色ある図書館機能が一層充実するよう、進めてまいります。

芸術文化の振興につきましては、合併記念展として、郷土の偉人であり、生誕250年という節目の年を迎える蘭学者大槻玄沢についての展覧会を開催し、また、当市にある県指定有形文化財を中心に文化財展を開催するとともに、市民の文化活動を支援してまいります。

北村健郎教育委員長

骨寺村荘園遺跡を保存整備

平泉文化の世界遺産登録につきましては、昨年12月、世界遺産登録推薦書がユネスコに正式受理されましたが、今後はイコモスによる現地調査が行われ、順調に推移すれば、平成20年夏ごろに世界遺産に登録されることとなりますので、価値ある骨寺村荘園遺跡を後世に守り伝えるため、地元住民との十分な話し合いや、専門家などの意見を踏まえ、必要な整備を計画的に進めてまいります。

また、本年は散策マップを作成し、骨寺村荘園遺跡の素晴らしさを多くの方にPRするとともに、この遺跡の価値を正しく理解いただくための講演会や研修会を開催するなど、啓発活動にも一層努めてまいります。

生涯スポーツにつきましては、市一体となったスポーツ振興を図るため、各地域の7つの体育協会が統合され、社団法人一関市体育協会となり、また、種目別協会も統合されます。教育委員会としましては、体育協会などとの一層の連携を図りながら、総合型地域スポーツクラブの設立育成支援などを行い、地域に根ざした生涯スポーツの推進に努めてまいります。

以上、新年度の教育行政施策の概要を申し上げましたが、関係団体などとの連携を図りながら、生涯にわたる市民の学習活動を推進し、効果的な生涯学習の展開に尽力してまいる所存でありますので、皆様方のご理解、ご支援、ご指導を心からお願い申し上げます。

世界遺産を目指して

「深いつながりがある骨寺村と中尊寺」

「骨寺村を語る会」に300人

本寺地区地域づくり推進協議会（佐藤武雄会長）、本寺地区区長会が主催する「骨寺村を語る会」は2月18日、本寺中体育館で催されました。地区はもとより市内外から訪れた約300人の参加者は、世界文化遺産登録を目指す骨寺村荘園遺跡についてあらためて学ぶとともに、もち料理や郷土芸能など、地元の皆さんの温かいもてなしを楽しみました。

佐藤会長は「地域の皆さんにあらためて骨寺村荘園を理解していただきたいと、瑞山、小猪岡の皆さんの協力をいただき開催した。これを機会に今後の地域のあり方を考え、世界遺産登録後の支援もお願いしたい」とあいさつ。市長代理で訪れた坂本助役と松川求県南広域振興局一関総合支局長が祝辞を述べた後、講演が始まりました。

市文化財調査委員の小野寺啓さんは「伝説の骨寺」と題し、地域に伝わる伝承の観点から講演。「中尊寺の荘園だった本寺は、天台宗の修行僧や修験者の『祈りの里』で、伝承が数多く残されている。『麗美宮（いつくしのみや）』などの地名は、産鉄や鍛冶にかかわる古代信仰に由来するもので、これらに携わる人々が住んでいたことを伝える伝承では」と数十年にわたる調査から導いた自説を述べました。

中尊寺西谷坊（にしたにぼう）の菅原光中住職と菅原光聴さんは「骨寺村と中尊寺のつながり」と題し講演。光聴さんは「中尊寺経は中尊寺の宝。その中尊寺経を経済的に支えたのが骨寺だった」と話し、「中尊寺と骨寺のつながりはいったん途絶えたが、これを機会に復活させたい」と結びました。

会場には地元の人が1年間撮り続けた本寺の風景写真が展示されたほか、昼食には地区の女性手作りのもち料理や甘酒が振る舞われ、また、本寺中生徒による鶏舞や郷土芸能が披露されなど、参加者はさまざまな本寺に触れることができました。

昨年秋の稲刈りに続いて参加したという真柴の荒井次男さんは「『骨寺』の意味をわかりやすく説明してもらい、良かったですね。機会があればまた参加したい」と満足そうでした。

上　昼食にはもち料理が振る舞われました
下左　中尊寺西谷坊の菅原光聴さん
下右　本寺中生徒が伝統の鶏舞を披露